

地域学校協働連携NEWS



こちらの二次元コードから、閲覧・ダウンロードができます →

郷土料理作り ～ 荒海中学校 ～

この活動にはR6「南会津ふるさと教育事業」の資金が役立てられています。

11月27日(水)、荒海中学校の郷土料理作りを訪問しました。この学習は「地域の伝統として受け継がれた郷土料理を調理することによって地域の食や文化を理解し、自分たちの食生活に生かす」ことをねらいとして、1学年家庭科の授業として実施されました。一般的な献立とは異なるため、家庭科を担当する教員も指導に悩むところでしたが、郷土のことをよく知る地域の方々の協力を得て、地域学校協働活動の一つとして実施されていました。当日は窓口役となって役割を果たしておられる仲川さんをはじめとする荒海地区の方々を講師に迎え、「しんごろう」と「くじら汁」作りに取り組みました。香ばしい香りが漂う家庭科室では、会話を楽しみながら笑顔で調理に取り組む生徒と地域の方々の姿が見られました。



協力いただいた地域の皆さん



仲川さん



味噌とじゅうねん擦り。このサイズのすり鉢は貴重です。



手作りの焼き台も持参いただきました

私は生まれも育ちもこの地区です。家庭ではなかなかできない活動だと思い、この行事には毎年関わっています。



下準備完了

講師の先生に教えてもらいながら皆で分担して調理することができました。上手な包丁の使い方も教えてもらったので家で料理するときにも生かしたいです。(生徒感想)



「合い言葉は?」「おいしくな〜れ」…



何気ない会話も弾みます



郷土料理のよさを満喫しました!

「これだけの活動を学校関係者だけでやろうとしても実施はなかなか難しいと思います。地域の皆さんのご協力があってこそ、このように充実した教育活動が成り立っています。」と話してくださったのは家庭科を担当している松村教頭先生です。「これをご飯に塗ったら完成ですか?」「焼かないとおいしくならないでしょ」「すりごぎは一人じゃ無理」「交替したら。みんなでやるとおいしくなるんだよ」。これらは、活動中の生徒と地域の方とのやりとりの一部です。活動中は終始このようなコミュニケーションがとられていました。時には「食べ物をそんなに雑に扱うんじゃないの!」という愛情溢れるご指導も。それに対してすかさず「すみません」と返しますが、なぜか生徒の表情は柔らかです。地域の方の言葉には、生徒の心に響く不思議な力があると感じました。